

教職課程を最適化し高度化する「リエゾン型学びのネットワーク」へ

～令和の日本型学校教育を実現する福井大学教育学部フラッグシップカリキュラム～ R6.12.6



福井大学教育学部では「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、**地域の実践コミュニティに参画しながら省察的に学ぶ「リエゾン型学びのネットワーク」**を基盤とするカリキュラムにより、次世代型教員の育成を推進しています。

学習観・授業観の転換が目指す主体的・協働的・深い学びは、学習者どうしの架橋や学びの架橋といった、多層的・多重的なリエゾンのなかで活性化します。また、教員養成は大学だけで完結するものではなく、教師が成長するための学びのエコシステム構築が求められています。この理念に基づき、複数の教職科目の学びの相互交流〈リエゾン・プラットフォーム〉や、フラッグシップ科目を中心とした理論と実践の循環〈リエゾン・スパイラル〉を軸に、教職の理論と実践、各教科・領域の専門的力量、インクルーシブ教育、ICT活用やSTEAM教育に関する指導力を体系的に育成し、地域との共創を通じて教育と社会の発展に貢献します。

1. フラッグシップ大学としての教員養成カリキュラム開発の基本デザイン

TASK

- 1 学習観・授業観の転換を担う教師育成のための7つの目標群に応えるフラッグシップ科目プログラムを加えたカリキュラム開発。
- 2 カリキュラム・オーバーロード問題への対応を見据え、ミニマムな免許課程（幼51単位、小中高59単位）へ再構成。
- 3 「理論と実践の往還」により、学習者主体の学び、主体的・協働的で深い学びや探究学習をデザインできる教師としてのコンピテンシー育成。
- 4 教育委員会や地域との連携・協働を拡充し、教育プログラムの充実・展開に加え、中高大接続事業、地域教員採用枠設置、教育プログラムの県内他大学への展開を図る。
- 5 教職大学院教育との相似構造による学習デザインや、教職大学院プログラム科目先取り履修プログラムにより、学部教育と教職大学院教育の有機的な連携・接続を図る。
- 6 多様な子どもや特別な配慮や支援を必要とする子どもへの理解、対応力の育成。
- 7 総合大学として他部局との連携・協働を活用したプログラム展開の取組。

CHALLENGE

新たなフラッグシップ科目を設置すると同時に、全体として免許法要件を満たす科目配置としながらも、学びの質を十分に担保し、さらに教員養成機能の高度化を図るカリキュラムデザインが必要。

* 第3欄・第4欄の科目（小中）に含めることが必要な事項：14項目（コアカリキュラム到達目標 129項目）

各事項を分離し個別の枠内で習得させる伝達的学習スタイルのみでは、授業時間数減により学びの質の担保・高度化が困難に。

SOLUTION

trans-actionalな学習を促す 「リエゾン型学びのネットワーク」

複数の学習内容・学年・学習の場を架橋する多層的・多重的なリエゾンをカリキュラムとして設計することにより、実践・行動との相互作用のなかでのtrans-actionalな学びの変容・深化プロセスの生成を促し、個々の知識・資質・能力の学習を動的な学びのネットワークに編み上げ、学び続ける教師としてのコンピテンシーを育成。

フラッグシップ科目は、理論と実践の往還や融合を通じて、令和の日本型学校教育を支える教育者としての基盤を強化します。大学での学びを実践に活かし、省察を繰り返す循環的な学びにより、学生の成長を促します。また、地域や教育現場との連携を深め、協働のネットワークを構築します。

2-1. 令和6年度フラッグシップカリキュラムの免許要件単位構成

FLAGSHIP CULLICULUM

SHIPPING COLLEGE

			法令上単位数			
			幼稚園	小学校	中学校	高校
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科（領域）に関する専門的事項	1種(16)	1種(30)	1種(28)	1種(24)
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	2種(12)	2種(16)	2種(12)	差分(8)
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	1種(10)	1種(10)	1種(10)	1種(10)
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）				
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	1種(10)	1種(10)	1種(10)	1種(8)
		総合的な学習の時間の指導法				
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術				
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
		生徒指導の理論及び方法				
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
		幼児理解の理論及び方法				
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習	1種(5)	1種(5)	1種(5)	1種(3)
			2種(5)	2種(5)	2種(5)	2種(3)
		教職実践演習	差分(0)	差分(0)	差分(0)	差分(0)
第6欄	大学が独自に設定する科目	※必修2単位				
		大学が独自に設定する科目	14	2	4	12
		指定大学が加える科目（協働学習支援プロジェクトⅠ）	0	0	0	0
		指定大学が加える科目（心理発達支援プロジェクトⅠ）				
		指定大学が加える科目（STEAM・総合探究Ⅰ）				
		指定大学が加える科目（STEAM・総合探究Ⅱ）				
指定大学が加える科目（地域実践演習）						
総単位数		51	59	59	59	

必修単位のまとめ				必修単位の構成			
幼	小	中	高	幼	小	中	高
14	28	28	24	4	8	20	20
7				10	20	8	4
				2	2	2	2
				1	1	1	1
				2	2	2	2
				2	2	2	2
4				※	※	※	※
					2	2	
					1	1	1
				2	2	2	2
					1	1	1
					1	1	1
				1	1	1	1
5					★	★	★
				1			
				4	4	4	2
3				1	1	1	1
				2	2	2	2
2				2	2	2	2
14	2	4	12	14	2	4	12
5				2	2		
				2	2	2	2
					1	1	1
					1	1	1
				1	1	1	1
51	59	59	59	51	59	59	59

単位を減じた欄

フラッグシップ特例科目

教職科目群は、講義と実習を通じて、学生が教職専門性の基礎力と実践的な指導スキルを体系的に習得できるよう設計されています。大学での学びと教育現場をつなぐリエゾンの役割を果たし、理論と実践を統合することで、教育現場での即戦力となる力を養います。

2-2. 単位減・組換えした第3欄・第4欄科目と他科目とのリエゾン

FLAGSHIP CULLICULUM

	R4年度		R6年度		
第3欄	教育の理念・歴史・思想	2	教育の理念・歴史・思想	1	連携科目：カリキュラムと教育方法、教職入門（要件外）、教職実践演習
	教職入門	2	教職の意義	1	
	教育制度・経営論	2	教育制度・経営論A	1	
	教育心理学	2	教育・学校心理学	2	
	発達心理学	2			
	特別支援教育総論	2	特別支援教育総論	2	
		12		7	
第4欄	道徳教育法	2	道徳教育法	2	連携科目：協働学習支援プロジェクト I
	総合的な学習の時間の指導法（特別活動の指導法を含む）	4	総合的な学習の時間の指導法（特別活動の指導法を含む）	1	
	カリキュラムと教育方法（※教育課程の意義及び編成の方法を含む）	2	カリキュラムと教育方法（※教育課程の意義及び編成の方法を含む）	2	連携科目：教育の理念・歴史・思想、教職の意義、教職入門（要件外）、教職実践演習
	ICT活用教育概論	2	ICT活用教育概論	1	
			教育相談の理論と方法	1	連携科目：心理発達支援プロジェクト I
	学校教育相談研究	4	生徒指導論（※進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む）	1	
	幼児理解の理論及び方法	(2)	幼児理解の理論及び方法	(2)	
		14		8	

複数の教職専門性を備えた教員の育成

- 1・2年次 小中2免許取得に向けた基礎力育成（教採3年次実施の対応）
- 3・4年次 学生のめざす教員像に応じたプログラム・科目選択
 - 自らの目指す教職専門性について考え選択する主体性の育成
 - 学校現場のニーズや教員採用試験のスキームに対応できる柔軟な制度設計

特別支援2種免許プログラム（R4実装済）

通常学級においても求められる専門性、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの理解・対応

中学校2種免許プログラム（R4実装済）

小規模中学校等で求められる、複数の中学校教科免許取得
複数教科の専門性を持つ小学校教員の養成

嶺南地域教育プログラム（R4実装済）

1～4年次。嶺南地域の教育の現状と教育リソースを踏まえた地域共創実践力を地域の教育関連機関とともに育成。

教職大学院先取り履修プログラム（設計中）

新カリキュラム4年次を想定し、教職大学院が開設。
学部教育と連携し、年間を通して拠点校での長期インターンシップ等を履修。教職大学院1年修了を可能に。

フラッグシップ科目積上げにより実践経験を重ねる。
主専攻の中高専門科目積上げにより専門を深める。

NOTE

工学部の教職課程について：本学工学部では「理科」と「工業」の教員免許が取得可能で、特例措置（免許法第5条別表第1備考第5・第6）を活用しているが、**フラッグシップ特例との併用は不可**。このため、フラッグシップ特例を選択すると教職科目の履修負担が大幅に増え、免許取得が困難になる。**他学部展開には制度改正が必要**。

現在、工学部生にはフラッグシップ科目「心理発達支援プロジェクト I」の任意履修を推奨。特例措置対象の他分野（数学、音楽、美術など）も同様の課題を抱える。

総合大学としての取組み：全学リソースを活用し、数理・データサイエンス・AI教育、嶺南共創センター、地域企業経営者ネットワークとの連携を推進。



3. リエゾン型学びのネットワーク

SCHEME I

教職コアカリキュラムの異学年協働学習によるリエゾン・プラットフォーム

教職6科目を全学年のチーム協働探究学習を基盤に設計。

異学年・異コースの相互交流により学びのtrans-actionを促進するリエゾン・プラットフォーム

- 4年間の協働探究で複数の教職理論・実践を有機的に接続・往還。
- 全教科・領域の学生の学びの交流とtrans-actionのプラットフォーム。
- 学年別講義・演習を取り入れ、理論学習と協働探究の往還を強化。
- 成果を「公開クロスセッション」で発表し、高校生や学外教育関係者と交流。
- 学部教員と教職大学院教員がチームで指導を担当。

1年次から上級生の経験や議論を共有し実践を意識した学習を進め、上級生は自身の学びを振り返り教職理論を実践に基づいて深化させる。

学部と教職大学院の学びを有機的に接続し、円滑な移行を支える基盤を形成する。

Why Liaison?

なぜリエゾンが必要なのか。

教師は世代を繋ぎつつ、生涯にわたって学び続ける専門職であるからです。

学年	1Q	2Q	3Q		4Q
4	教職実践演習(教科別)		教職実践演習	公開クロスセッション	
3	学校教育実践研究		学校教育実践研究		
2	カリキュラムと教育方法	カリキュラムと教育方法(学年別)	カリキュラムと教育方法		
1	教職入門	教育の理念・歴史・思想(学年別)	教職入門		教職の意義(学年別)



3. リエゾン型学びのネットワーク

SCHEME II

フラッグシップ科目で加速させる理論と実践のリエゾン・スパイラル

多様な実践を軸とするフラッグシップ科目を通して、理論と実践のtrans-actionを促す
往還的学びのプロセスを加速し、地域の実践コミュニティに参画する学びのネットワークを拡げる

- 必修5科目7単位＋選択3科目10単位で多様な実践的・協働探究学習の長期的・継続的な学習をデザイン
- 他の教職理論や教科教育・教科内容の学習との実践と理論の往還のエンジンとして機能
- 地域の実践コミュニティに参画しながら省察的に学ぶ意義を体得する

1年次から地域の「学びのリアル」のなかで実践力育成「理論と実践」「個別と協働」の往還により探究力・協働力・主体性を育成

Why Liaison?

なぜリエゾンが必要なのか。

教師が地域の具体的で実際の課題に取り組む（地域と繋がる）姿勢が、子どもの探究心を育むからです。

地域実践演習（3年次）

地域における課題探究・実践・省察。附属学校や地域の公立学校での学校体験学習、福井市教育委員会と連携したプログラミング教育研修・実践。

心理発達支援プロジェクトⅠ（2年次）

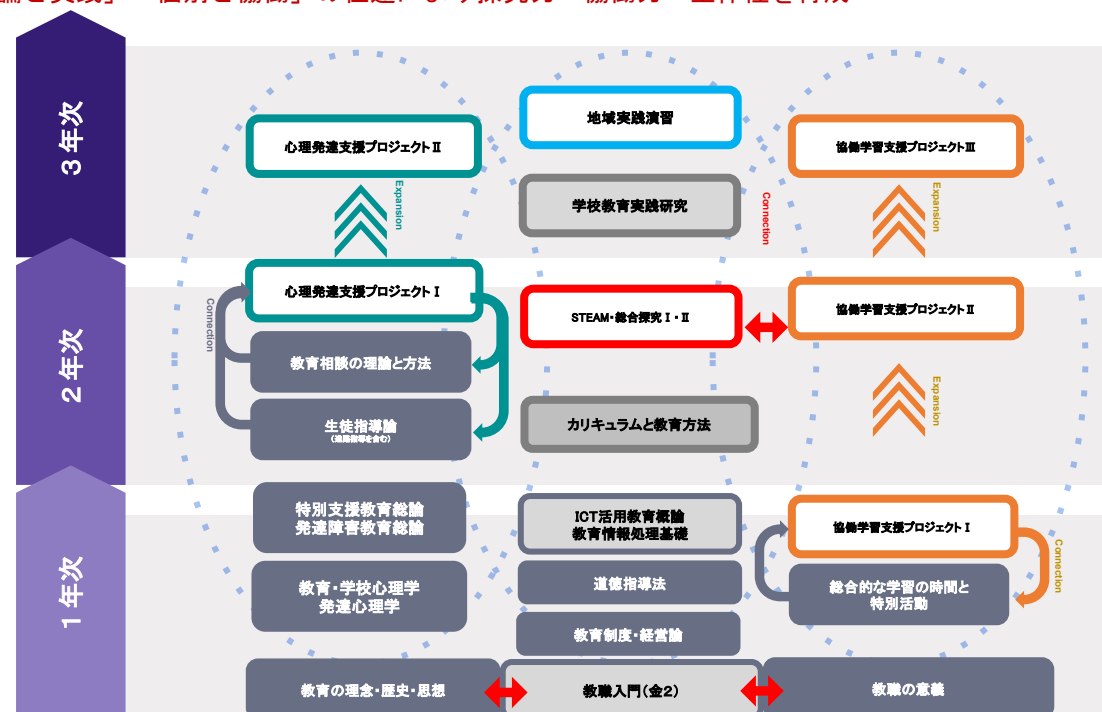
福井市教育委員会や適応指導教室と連携し、長期的に気がかりな子どもを支援。選択科目Ⅱ（3年次）

STEAM・総合探究Ⅰ・Ⅱ（2年次）

ICTを活用した教科横断的な教材開発。チームによる共同的創造性の創発体験、日常から課題発見する視点の獲得。

協働学習支援プロジェクトⅠ（1年次）

地域の児童の主体的・協働的・探究的な学びの企画・実践・ファシリテート。選択科目：Ⅱ（2年次）、Ⅲ（3年次）





3. リエゾン型学びのネットワーク

SCHEME III

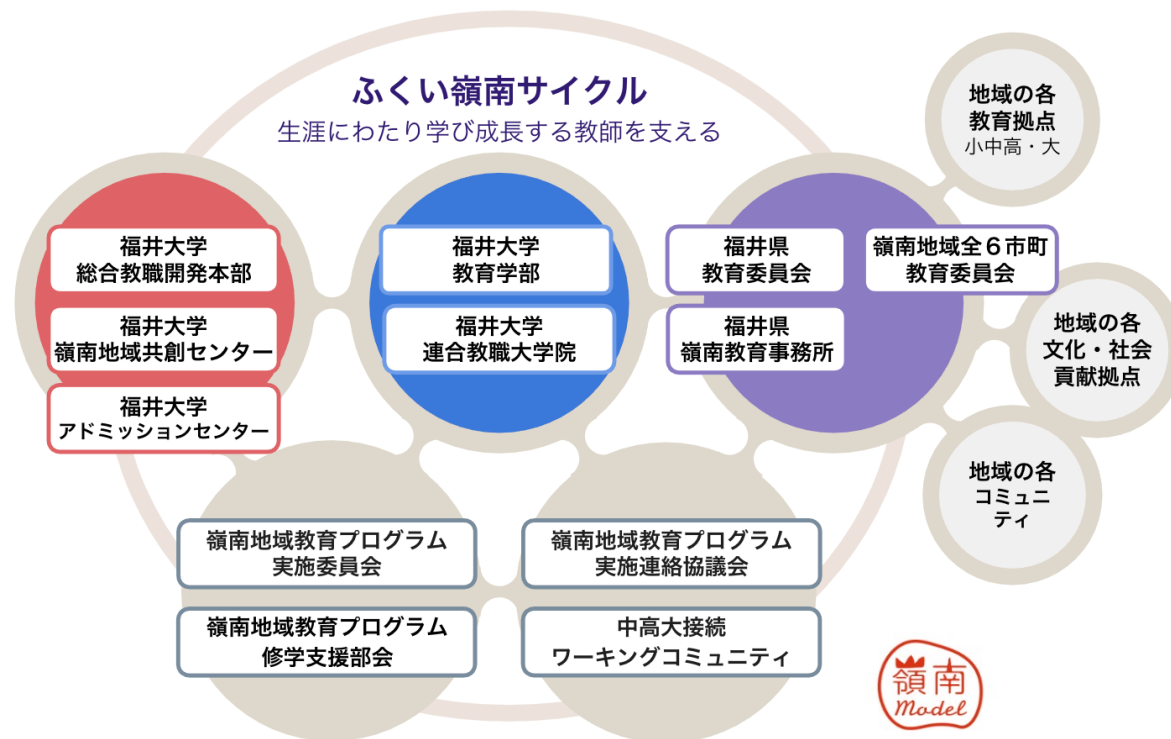
地域とのリエゾンと共創により学生の力量を育み教職への展望を支える

生涯を通じて働き、学び、成長できる自己実現の場としての教職へ

- ・ 嶺南6市町・教育委員会と共に教員養成に取り組む「嶺南地域教育プログラム」（R4～）
- ・ 教育委員会・地域のカウンセラー等と連携して取り組む心理発達支援プロジェクト（ライフパートナー事業）

地域共創の学習を通して将来の職場環境を知りロールモデルに会う

学生の学修の協働運営を通して、学び続ける教師を支える地域・学校・大学コミュニティを編む



Why Liaison?

なぜリエゾンが必要なのか。

地域と共に教員養成に取り組むことで、新たな教育の姿を拓き共創することができるからです。

地域と共に教員養成に取り組む

嶺南地域教育プログラム R4～

嶺南市町教育委員会・嶺南の学校・県教育委員会と大学教員とのパートナーシップにより企画・運営

1年次後期：「嶺南地域学A」【1単位】
探究力 | 嶺南地域の現状と教育の特徴を知る

2年次通年：「嶺南地域学B」【1単位】
革新力 | 具体的な授業づくりに向けた基礎探究

3年次通年：「地域実践演習」【1単位】
共創力 | 嶺南の教育現場を知り省察する

4年次前期：「教育実習（2w）」【2単位】
探究力・革新力・共創力で臨む教育実践



3. リエゾン型学びのネットワーク

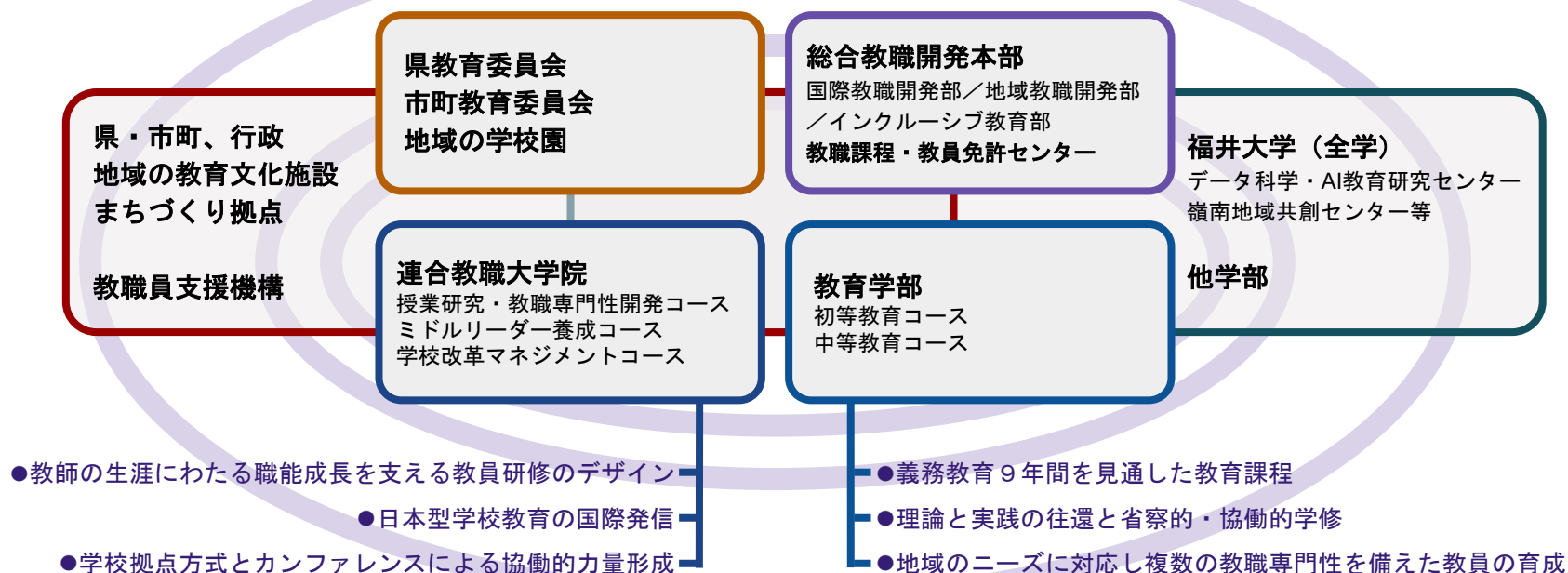
SCHEME IV

学部・教職大学院・地域で教員養成を支え育む地域共創コミュニティを醸成

教員養成と教師の職能成長を支える地域共創コミュニティの創出により、学習観・教育観の転換を実現しながら地域の教員養成・教師教育を支える体制維持・構築をめざす

- 教員養成と教師教育・現職教員研修の双方向からの改革アプローチ（学習観・授業観の転換）
- コンパクトかつフレキシブルな組織体制の構築（教育学部・連合教職大学院・総合教職開発本部）
- 生涯にわたる職能成長を支える共創コミュニティの醸成（県・市町教育委員会等とのパートナーシップ）

少子化・財政難の課題へ対応し、学習観・教育観の転換を実現する地域の教員養成・教師教育を支える体制維持・構築へ



Why Liaison?

なぜリエゾンが必要なのか。

教員養成は大学・大学院だけで完結するものではなく、教師が育つエコシステム構築が必要だからです。